

## 未来社会創造事業 探索加速型探索研究

### 事後評価結果

#### 1. 領域

「超スマート社会の実現」領域

#### 2. 重点公募テーマ

多種・多様なコンポーネントを連携・協調させ、新たなサービスの創生を可能とするサービスプラットフォームの構築

#### 3. 研究開発課題名

超スマートシティ・サービスマネジメント・プラットフォームの構築

#### 4. 研究開発代表者名（機関名・役職は評価時点）

林 泰弘（早稲田大学 理工学術院 教授、スマート社会技術融合研究機構 機構長）

#### 5. 評価結果

本研究開発課題は、都市における電力システムと交通システムを統合的に扱うことにより、インフラ運用の効率化・最適化と、街の活性化や豊かで安全安心な生活に寄与する新たなサービスの創生を可能とするプラットフォームの構築を目指すものであり、様々な様態のスマートシティに適用可能なプラットフォームが実現すれば社会・経済的インパクトは高いものと期待される。

探索研究では、人口減少や少子高齢化に伴う地方都市の共通課題として公共交通分担率向上と CO2 排出量削減を取り上げ、その解決に向けた具体的なアプローチを E-MaaS 構想という明確なビジョンと共に示し、国内外の多くの都市・地域での活用を前提としたシナリオを具体的に示した。さらに、その実証のため宇都宮市において、電力需要・発電余剰予測およびそれらと交通データとを組み合わせたエネルギー利用の最適化等を、16 万世帯というかなり大きな規模で具体的に実証試験を行うなど、着実な研究進捗が認められ、評価される。また研究実施にあたっては、電力・交通・人流といったスマートシティの重要要素の専門家が連携しながら進めるとともに、ACROSS（早稲田大学スマート社会技術融合研究機構）加盟社を中心として、技術移転・実システムへの適用・事業化を見据えた関係構築も適切に進められた。以上のようなことから、探索研究は順調に進捗したと認められ、今後の研究開発の進展についても、大きな期待が持たれる。

今後、本探索研究を通じて構築した宇都宮市との実証実験を進める上では、地域住民などステークホルダーを適切に巻き込みながら進めていくことが望まれる。また、宇都宮市における実証実験での成功要因や条件の分析を通じて、他の様態の都市での適用を進めるなど、プラットフォーム構築という最終目標に向かって本研究が発展することを期待する。

以上